

2003年5月23日

プラズマディスプレイパネルを使用した新しい交通広告媒体の運用実験を開始

5月26日から約9ヶ月間、田園都市線渋谷駅構内で

東京急行電鉄株式会社
株式会社東急エージェンシー
松下電器産業株式会社
ピーディーシー株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：上條清文）、東急エージェンシー（本社：東京都港区、社長：久保恭一）、松下電器産業（本社：大阪府門真市、社長：中村邦夫）、ピーディーシー（本社：東京都中央区、社長：菅原淳之）の4社は、2003年5月26日（月）から田園都市線渋谷駅構内で、プラズマディスプレイパネル（以下、PDP）を使用した新しい広告媒体の運用実験を開始するとともに、既存の広告媒体と組み合わせた、より効果の高い交通広告手法の開発に向けた検証を行います。

今回、運用を開始する媒体は、田園都市線渋谷駅の改札付近という好ロケーションに50インチ画面のPDP9機を設置するもので、それらの組み合わせによる150インチの大型表示や9面マルチ表示など、多彩な演出での動画配信によって、通行するお客様への訴求力が既存広告媒体に比べて高いのが特徴です。また駅という立地特性を活かし、駅貼りポスターなど他の交通広告媒体や、サンプル配布などの広告キャンペーンとの連動を図ることで、さらに広告効果を高めることが可能です。

実験期間は約9ヶ月で、その間、実際にクライアントを募集してCFなどの動画を配信し、広告媒体としての認知度や効果を検証するほか、ニュースや天気予報など広告以外の情報も配信し、駅という場所を通行するお客様に対して、より認知度の高い動画コンテンツの検討を行います。あわせて、携帯電話との連携などについても今後検討をしていきます。

運用にあたっては、東京急行電鉄が総合管理を行い、東急エージェンシーが統括代理店としてクライアント募集および媒体運営を担当、松下電器産業は機器の設置を、ピーディーシーは高速インターネット回線を使った配信業務および技術協力を行います。

従来の広告ビジョンは、駅前のビルなどに設置された街頭ビジョンが一般的で、駅構内への導入はこれまであまり例がありませんでした。今回の実験を通して多くのお客様が通行する駅構内での有用性を検証し、次世代の交通広告媒体としての可能性を探っていきます。

プラズマディスプレイパネルを使用した新しい広告媒体の実験的運用の概要は次の通りです。

プラズマディスプレイパネルを使用した新しい広告媒体の実験的運用の概要

実験期間

2003年5月26日(月)から約9ヶ月間(予定)

設置場所

田園都市線・渋谷駅構内 地下2階 ハチ公方面改札口外

設備

50インチ画面のプラズマディスプレイパネル 9機
(9機を縦3×横3に配置し、150インチの大画面として一体で使用)

参考データ

田園都市線・渋谷駅の1日平均乗降人員 620,720人

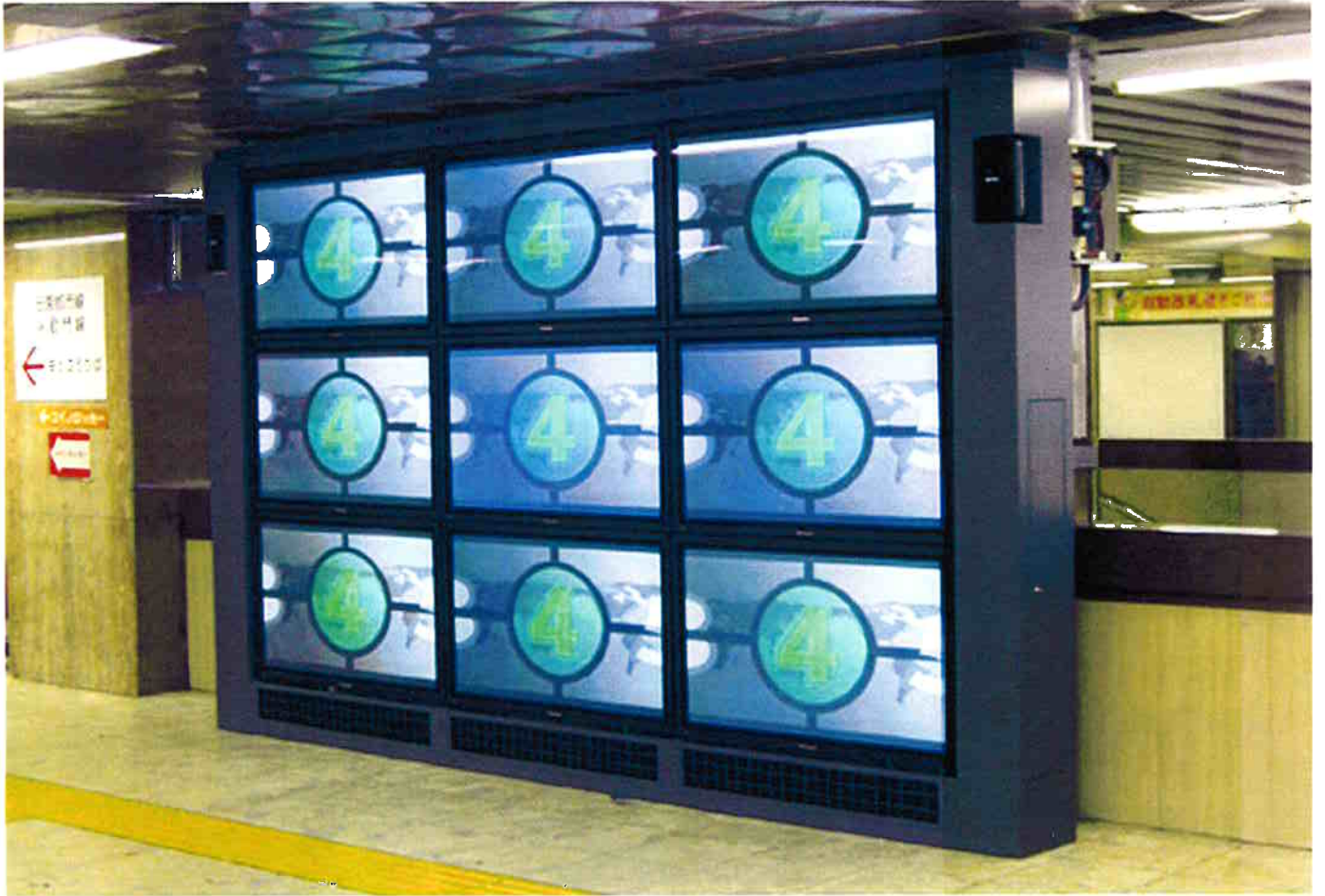
クライアントの募集に関するお問い合わせ先

株式会社東急エージェンシー コミュニティメディア局

担当：太田、辻田

電話：03-5561-9429 ファックス：03-5561-9607

以上



田園都市線渋谷駅に設置したプラズマディスプレイパネル